

一般社団法人 群馬県作業療法士会 第16回総会

議 案 書



期 日： 令和8年6月28日（日）

10：30 ～ 11：30

場 所： 公益財団法人脳血管研究所 てんぼくホール
〒372-0048 群馬県伊勢崎市大手町1-1

事務局： 前橋市紅雲町1-7-12
住宅公社ビル4階
群馬県作業療法士会事務局
TEL & FAX 027-224-4649

目 次

第 1 号議案	令和 7 年度事業報告	-----	1
第 2 号議案	令和 7 年度歳入歳出決算書・監査報告書	-----	別添
第 3 号議案	令和 8 年度事業計画案	-----	10
	令和 8 年度予算案	-----	22
第 4 号議案	第 29 回群馬県作業療法学会 学会長承認の件	-----	26
第 5 号議案	その他	-----	26

資料

令和 7 年度	役員名簿	-----	26
令和 7 年度	事務局保管文献一覧	-----	28
令和 7 年度	ニュース交換団体一覧	-----	28
令和 7 年度	入会・転入・転出・退会	-----	28

総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 定足数報告
5. 議事録署名人及び書記任命
6. 議事

第 1 号議案 令和 7 年度事業報告

第 2 号議案 令和 7 年度歳入歳出決算書・監査報告

第 3 号議案 令和 8 年度事業計画及び予算案

第 4 号議案 第 29 回群馬県作業療法学会 学会長承認の件

第 5 号議案 その他

7. 議長解任
8. 閉会のことば

第1号議案 令和7年度事業報告

1. 会長

会長 新井健五

会長として以下の活動を行った。

- (1)会務の統括（資産・会計の管理，事業の進捗管理，理事会・各局・各部・委員会への業務提言・指示，理事会等における各局・各部担当局長及び担当理事からの報告を受けての助言・提言等）。
- (2)理事会の招集。
- (3)三役会の議事運営（メール会議含む）。
- (4)専決事項の処理。
- (5)県（医務課・介護高齢課・障害政策課等）や市町村等の公的機関との連携・折衝（各種委員の推薦等含む）。
- (6)関係各機関・関連団体との折衝・連携（後援依頼の受託等含む）。
- (7)事務局（事務局長）との連携及び各種業務遂行指示。
- (8)各部・各委員会活動への指示並びに提言及び助言。
- (9)一般社団法人日本作業療法士協会との折衝・連携窓口。
- (10)日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会 48 団体連絡協議会（よんぱち）県代表者としての活動。
- (11)北関東信越ブロック支部県代表者としての活動。
- (12)群馬県地域リハビリテーション協議会委員としての活動。
- (13)群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会副会長としての活動。
- (14)第 26 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 群馬 2025 副大会長としての活動。
- (15)その他の渉外活動（他団体・行政）。
- (16)公益活動の推進に資する活動。
- (17)会員の福利向上に資する活動（名誉会員表彰含む）。
- (18)群馬県作業療法士会創立 40 周年記念式典実行委員会への参画。
- (19)その他，群馬県作業療法士会及び作業療法の啓発並びに地位の向上に資する活動。

2. 事務局

事務局長 長谷川明洋

(1)理事会関係

- ①理事へ理事会の通知及び出欠の報告を受けた。
- ②理事会を開催した。
- ③理事会議事録を作成した。

(2)研修会関係

- ①教育部等各部からの連絡（日時，場所，テーマ，講師等）を受けた。
- ②施設長及び講師宛公文書を作成し発送した。

(3)総会関係

- ①理事会からの決定（日時，場所等）を受け，会員宛文書を作成し発送した。
- ②総会資料（総会次第，旧年度事業報告，決算報告，会計監査報告，新年度事業計画案，予算案等）を作成した。
- ③総会会場の準備を行った。
- ④会員の出欠の確認と報告（封書連絡）を行った。

(4)会員名簿関係

- ①理事会，財務部，会員からの連絡を受けた。
- ②会員名簿作成と発送および保管を行った。

③財務部より賛助会員の情報を得た。

(5) 委嘱状関係

①役員(理事、監事、会長、副会長、事務局長、部長)の施設長および本人に委嘱状を送付した。

②各部が決定した部員の報告を受け、施設長および本人に委嘱状を送付した。

(6) 日本作業療法士協会関係

①会員管理システムを運用し、日本作業療法士協会との連携を図り、会員の入会・退会・異動者の共有を図った。また、会費・役員歴等の必要事項をパソコンに入力した。

②日本作業療法士協会からの問い合わせや依頼に回答・協力を行った(現況調査等)。

(7) 県士会ホームページ関係

①研修会、各種イベント等の掲載及び管理を行った。

②ホームページの記事掲載及び管理を行った。

③問い合わせフォーム等の管理を行った。

④ホームページ求人情報の掲載を行った

(8) 司法領域の作業療法について

①前橋刑務所と群馬県作業療法士会会員の派遣に関わる協定書を締結した。

②派遣チームを集い刑務所内見学及び現状と展望を聴取した。

③月1回の派遣から開始し、理事の小林・都丸が対応した。

④チームへの情報共有や派遣の方法を継続協議した。

(9) その他

①事務局の運営および事務員雇用に関わる処理を行った。

②群馬県作業療法士会ニュース・機関誌等を保管した。

③群馬県作業療法士会宛の郵便物の処理(受理、返信、報告等)・照会事項の処理(受理、返答、報告)をした。

④ニュース編集委員会への協力(議事録・研修会案内他)をした。

⑤群馬県、市町村、関連業者からの問い合わせへの対応を行った。

⑥新入会員の把握、入会の勧誘を行った。

⑦群馬県作業療法士会員宛てに書類・お知らせ等発送作業を行った。

⑧一般社団法人に関する登記変更がある場合に手続きを行った。

⑨活動費支払い済会員へ源泉徴収票を作成し発送した。また在住の市町村へも発送した。

⑩休業又は失業している正会員に対して会費の半額を減免する事業を行った。

3. 財務部

部長 石岡あずさ

(1) 令和7年度予算に関する収支管理を行った。

(2) 県士会費の集金を行った。(通帳引き落としデータ提出変更に伴う手続きを行った。)

(3) 関連業者に広告・賛助会員の募集を行い、広告料・賛助会費の管理を行った。

(4) 事務員給与、会費引落としにかかる各種手続き、事務局運営に関する金銭管理と出納の一部を行った。

(5) 事務局と連携し、納税に関する手続きの一部を行った。

(6) 各部、委員会、グループとともに会計を行った。

(7) 各部、委員会、グループと連携し前年度までの行動交通費及び活動費の振込を行った。

4. 県士会を楽しくする部(仮)

部長 勝野恵

(1) 「女性会員がもっと参加・参画しやすい県士会」のため、子育て世代、管理者層、学生を対象にした施策の検討

を開始した。

(2) 年 6 回の対面による定例会議を実施した。

(3) 広報部と連携し、県士会の Instagram の運用を開始した。学生や 20 代 30 代をターゲットとした内容や研修会案内、学術部と連携した論文紹介等を投稿した。

(4) 東毛、西毛の主任者会議で職場環境の改善のための働きかけを行った。

(5) 福利厚生部と連携し、子育て世代向け企画を立案した。

(6) 県士会への参画意識を調査するため、学会、研修会におけるアンケートを企画した。

(7) 来年度から事務局傘下機関の「多世代企画サポート室」として、幅広い世代が参加できる体制を準備した。

5. 教育部

部長 今井卓也

【研修会企画グループ】

グループ長 粕川将志

(1) 以下の研修会を企画・運営を行った。

① 現職者共通研修(8 テーマ)をオンラインにて開催。

② 現職者選択研修(発達領域)をオンラインにて開催。

③ 基礎ポイント研修をオンラインにて 2 回開催。

④ 新人症例発表会 対面形式で群馬医療福祉大学にて開催。

(2) zoom 運営に必要な準備を行った。

(3) 各ブロックで研修運営が継続できるように機能強化を図った。

(4) 2025 年度以降の新生涯教育制度への移行準備を行った。

(5) 研修会受付システムの Peatix を各ブロックで管理・運営した。

【生涯教育システムグループ】

グループ長 戸部沙代理

(1) 研修会参加者の名簿管理を行った。

(2) 日本作業療法士協会への受講ポイント申請、管理を行った。

(3) 士会裁量ポイント該当者を日本作業療法士協会へ申請した。

(4) SIG 研修会に対して日本作業療法士協会への申請方法を伝達した。

(5) 生涯教育制度についての会員からの問い合わせへの対応を行った。

(6) 日本作業療法士協会生涯教育制度委員会との協力を行った。

(7) 2025 年度以降の新生涯教育制度への移行準備を行った。

6. 学術部

部長 近藤健

(1) 県士会における学術活動の各種支援と運営、会議等を実施した。

(2) 県士会における学術活動に関連する事業について、各部と連携調整を行なった。

【機関誌編集グループ】

グループ長 柳井亮人

(1) 機関誌・学会誌「ぐんま作業療法研究」の発刊準備のため編集委員への連絡調整を実施した。

(2) 機関誌・学会誌「ぐんま作業療法研究 Vol. 28, 2025」を発行した。

① 投稿論文の募集と査読・編集業務を実施した(全 6 編)。

② 巻頭言・その他掲載記事の編集業務を実施した。

③ 学会誌作成のため、学会実行委員会に参加した。

(3) 2026 年度の機関紙への投稿論文を募集し、現在 4 編査読をしている。

【学術研究グループ】

グループ長 佐藤里沙

(1) 県士会員への日本作業療法学会(香川)、群馬県作業療法学会の演題発表・登録、発表の支援を行った。

- (2) 学術支援として、半年コースの少人数勉強会をオンラインにて開催し、日本作業療法学会（新潟）に 3 名，群馬県作業療法学会に 2 名の会員が演題登録した。

【学会支援グループ】

グループ長 秋山稜登

- (1) 第 27 回群馬県作業療法学会の運営について、公文書，ホームページ，財務管理を中心に支援を実施した。
(2) 第 28 回群馬県作業療法学会の開催準備の支援を実施した。

7. 広報部

部長 土岐新太

【公益事業グループ】

グループ長 中澤浩幸

- (1) 今年度は高校生を対象に WEB での交流会を開催。
(2) ノベルティグッズとしてクリアファイルの増刷を実施。

【ニュース編集グループ】

グループ長 大脇宗雅

- (1) 年 4 回(4, 7, 10, 1 月)のニュースを各号 1050 部ずつ発行。
(2) ニュースの改訂や新コーナーの導入など，内容充実化を行った。
(3) 研修会や各イベント情報など，事前広報を行った。
(4) グループ長の交代，引継ぎを行った。

【広報企画グループ】

グループ長 金子圭佑

- (1) 広報部各グループ(主に公益事業グループ)の活動に関わる情報収集を行った。
(2) 群馬県作業療法士会で使用するノベルティの作成に関わる情報収集と提案を行った。

8. 福利厚生部

部長 設楽俊史

- (1) 群馬県作業療法士会会員に対し，士会組織の説明や各部紹介を行った。
士会組織の説明や各部紹介をスライドショーとして作成し，研修会にて参加者へ周知を図った。
(2) 各表彰を実施，および表彰を行った。
① 群馬県作業療法士会新人症例発表会にて新人症例優秀演題賞を行った。
② 群馬県作業療法士会優秀演題賞，群馬県作業療法士会学術奨励賞
③ 群馬県作業療法士会優秀学生賞をそれぞれ行った。
(3) 福利厚生部主催での研修会の企画，運営を行った。
令和 8 年 1 月 24 日（土）講師：ソニー生命株式会社 千葉ライフプランナーセンター第 3 支社 細川智也先生
「リハビリ職のための資産形成セミナー」を開催。県士会員 20 名が参加した。
(4) チャリティーイベント「リレーフォーライフ」へ参加。
2025 年 10 月 11, 12 日 ALSOK ぐんま総合スポーツセンターにて，県士会員 9 名が参加した。
また，一般参加者へ作業療法士についてのパンフレットを 100 部配布した。

9. 地域作業療法推進部

部長 佐藤琢也

【地域包括ケア推進グループ】

グループ長 山口一幸

- (1) 地域包括ケア推進グループ定例会議を月 1 回の頻度で開催した。
(2) オンライン形式によるナイトセミナーを開催した。
令和 7 年 10 月 16 日 講師：前橋市社会福祉協議会地域福祉課 源後里実氏、江口ゆのか氏
(3) 日本作業療法士協会主催地域支援事業会議へ出席した。
令和 7 年 6 月 19 日 第 1 回地域支援事業会議 出席者：高坂，山浦，山口
令和 7 年 10 月 4・5 日 第 2 回地域支援事業会議 出席者：高坂，山浦

令和 8 年 2 月 15 日 第 3 回地域支援事業会議 出席者：高坂

(4) 関東・信越ブロック会議へ出席した。

令和 7 年 7 月 22 日ブロック会議 出席者：高坂，山口

令和 7 年 11 月 18 日ブロック会議 出席者：高坂，山口

令和 8 年 3 月 10 日ブロック会議 出席者：高坂，山口

(5) 令和 6 年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業の基金を使用し介護予防に資する指導者人材育成研修を対面形式で開催した。

日時：令和 8 年 2 月 28 日

講師：群馬医療福祉大学 山口智晴氏

テーマ：「地域リハ最前線」

参加者：34 名

(6) 市町村担当者配置事業の推進に向けた地域局との合同会議を実施した。

(7) 広報活動としてイベントに参加した。

令和 7 年 6 月 27 日 前橋市中央通り商店街 風街夕焼けマルシェ

令和 7 年 11 月 1 日 渋川市「渋川つながるフェスティバル」

(8) 今年度新たに 2 名の入部者が採択された。

【認知症支援推進グループ】

グループ長 笹谷朋弘

(1) 令和 7 年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金が採択となり、「認知症ケア資質向上のための 研修会」の研修事業を実施した。

第 1 回目：R7 年 10 月 18 日 会場：たまごホール

テーマ「認知症支援の未来-法制度・家族の声・地域連携から学ぶ」参加者：63 名

講師：木村憲洋氏(高崎健康福祉大学)

山口怜生氏(認知症の人と家族の会 副代表)

小林良 (有限会社まごころ)

第 2 回目：R8 年 2 月 8 日 会場：たまごホール

テーマ「認知症ケアの現場から学ぶ訪問リハ・認知症疾患センター・院内での取り組み」参加者：42 名

日時：令和 7 年 2 月 7 日 13 時から

講師：小池岳大 (平成日高クリニック)

野中和英 (老年病研究所附属病院認知症疾患医療センター)

堀口布美子 (老年病研究所附属病院)

(2) 認知症の人と家族の会の「つどい」へ継続して参加(月 1 回) 笹谷が参加した。

9 月のシンポジウムイベントなどの運営協力もした。

(3) 「福井県 OT 士会との合同勉強会」を実施した。

日程：令和 7 年 10 月 29 日 形式：オンライン参加者 32 名

(4) 実態調査事業

「認知症リハビリテーションに関する実態調査アンケート」を作成し、事務局に会員への配信を依頼した。

(5) 令和 8 年 1 月 31 日「士会における認知症への取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」に参加した。

参加者：笹谷，佐藤

【発達支援推進グループ】

担当理事/グループ長 吉岡和哉

(1) 特別支援学校センター的機能強化事業 外部専門家配置事業における作業療法士派遣を全 10 件実施した。
また今年度より同行研修を開始し 5 件実施した。

- ・4月22日 群馬県教育委員会特別支援教育課へ吉岡理事、小田氏で訪問した。
- ・6月20日 群馬県特別支援学校機能強化事業 第2回専門アドバイザー研修（群馬県教育委員会）講師として小田氏が参加した。
- ・12月19日 群馬県教育委員会特別支援教育課に吉岡理事、六本木氏で訪問した。

(2)外部専門家派遣事業における人材育成事業として定期勉強会を開催した。

- ・第1回 5月28日『外部専門家派遣事業説明会』参加人数：70名（県士会員29名、他県士会員18名、OT学生1名、ST3名、教諭・校長14名、市議会議員2名、その他3名）
- ・第2回 6月27日『地域の子ども支援をつなぐOTの視点を学ぶ会』話題提供者：中嶋鮎氏（合同会社anomira）、柳井明子氏（群馬医療福祉大学）。参加人数：14名（県士会員12名、学生2名）
- ・第3回 8月26日『前橋市の5歳児健診における作業療法士の関わりと実際』講師：信澤直美氏（前橋市こども支援課）。参加者：74名（県士会員42名、他県士会員30名、未入会OT1名、保健師1名、学生1名）
- ・第4回 12月14日『地域の子ども支援をつなぐOTの視点を学ぶ会 日々、若手が臨床で抱えるお悩み相談』話題提供者：金澤由季菜氏（群馬中央病院）、千葉祐一郎氏（群馬整肢療護園）、吉澤陽菜氏（内田病院）。参加人数：11名（県士会員10名、学生1名）
- ・第5回 1月25日『読み書きのつまづきにどう向き合うか～書字困難への支援的アプローチ』講師：高畑脩平氏（藍野大学）。参加人数：48名（県士会員25名、他県士会員15名、他職種7名、学生1名）
- ・第6回 3月10日『2025年度 外部専門家派遣事業報告会』参加人数：40名（県士会員15名、他県士会員15名、教諭5名、理学療法士2名、心理士1名、未入会OT1名、学生1名）

(3)学童保育に向けた人材育成として研修会開催および派遣同行を実施した。

- 9月23日『学童保育×作業療法士 ビギナー向け研修会』講師・八重樫 貴之氏（株式会社リニエR）、上嶋 安奈氏（高崎学童保育指導員の会会長）、江原 かおる氏（高崎学童保育指導員の会副会長）。参加人数：28名（県士会員19名、他士会員6名、学生2名、他職種1名）
- ・派遣3件、同行研修参加3名。

(4)精神科グループとの共催座談会を実施した。

- 10月25日『発達×精神ーしくじりOT編ー』話題提供者：塩ノ谷直輝氏（株式会社ワンライフ）。参加人数：19名（県士会員13名、士会未入会OT2名、学生4名）

(5)第2回関東小児OT交流会（幹事士会）の開催。

- 1月10日（土）参加人数第一部：25名（県士会6名、栃木県士会5名、東京都市会4名、千葉県士会4名、茨城県士会1名、OT協会1名、県内学生4名）、第2部（17名）

(6)5歳児健診への対応

太田市より対応の可否についてお伺いの問い合わせが吉岡理事宛てにあり対応した。その後、近隣病院で対応されるということが該当病院より報告された。

(7)作業療法士の啓蒙活動として発達推進グループのInstagramおよびHPでの情報発信を月1～2回行った。

加えて公式LINEの運用を開始した。

(8)メーリングリストでの情報発信（定期勉強会開催案内、求人情報など）を行った。

(9)今年度の決算書・事業報告書及び次年度の事業計画・予算案を作成した。

【精神科領域推進グループ】

グループ長 米原浩貴

(1)精神科領域推進グループ主催研修会「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムで活躍できる作業療法士・支援者になるには」を開催した。

第1回「地域支援者として必要な視点～当事者が地域生活で困ることなど～」

日時：令和7年9月27日，形式：ハイブリッド

講師：柳春海様(居場所づくり研究会代表理事)、ピアサポーター様（群馬県精神障害者社会福祉協議会）参加者：50名(現地10名、オンライン40名)

第2回「病院に対する期待、当事者家族による体験談」

日時：令和8年1月10日，形式：ハイブリッド

講師：吉邑玲子様(群馬県精神障害者家族連合会つつじ会会長)、田口高雄様（リカバリーカレッジあんなか）参加者：61名(現地12名、オンライン49名)

(2)「精神障害領域作業療法士向け 相談会・座談会」を2回開催した。

日時：令和7年8月8日，形式：オンライン，話題提供者：鈴木一広氏（群馬医療福祉大学）参加者：11名

日時：令和8年2月4日，形式：オンライン，話題提供者：岸祥穂氏（上之原病院）参加者：15名

(3) ソーシャルバスケットキャラバンの広報活動に協力し，グループ員から2名参加をした。

(4) 発達グループとのコラボ研修会を開催した。

「精神 OT×発達 OT コラボ研修 しくじり OT 編」

日時：令和7年10月25日，形式：対面，会場：群馬医療福祉大学，参加者：19名

(5) 県内精神科領域作業療法士対象に士会事業運営の課題を明らかにする目的でアンケート調査を実施した。

(6) 広報活動の一環として精神科領域推進グループの Instagram, X にて情報発信をした。

(7) 広報活動の一環として他グループとともに以下のイベントへ参加した。

令和7年9月6日 前橋市「こころのふれあいフェスタ」

令和7年11月1日 渋川市「つながるフェスティバル」

令和8年3月1日 渋川市「第4回憩いの広場」

(8) 退部者が2名，新規に5名入部した。

10. 地域局

【北中毛ブロック支部】

ブロック長 小此木諭

(1) 主任者会議を開催し診療報酬改定、地域支援事業についての情報共有を行なった。

(2) 地域局会議を6回開催し地域局での方向性の統一と情報共有を行った。

(3) 各病院及び事業所の主任者，メーリングリストの修正を行った。

(4) 地域作業療法推進部と情報共有を行った。

(5) 第27回群馬県作業療法学会の準備及び運営を協働で行なった。

(6) 令和8年3月6日前橋市地域リハビリテーション推進会議に出席をした。

【西毛ブロック支部】

ブロック長 山浦卓哉

(1) 定期的に地域局会議を実施した。

(2) 西毛ブロック支部主任代表者会議を行った。

(3) 第28回群馬県作業療法学会の準備を行った。

(4) 地域包括ケアフェスティバル in たかさき 2025 に出展した。

(5) 主任代表者の連絡先の確認・修正を行った。

(6) 地域作業療法推進部と合同会議を開催し，情報共有を行った。

(7) 高崎市障害者自立支援判定審査会委員の選定を行った。

【東毛ブロック支部】

ブロック長 今村雄二

(1) 定期的に地域局会議を実施した。

(2) 東毛ブロック支部主任代表者会議を行った。

- (3)行政からの講師派遣依頼に調整を行った。
- (4)主任代表者の連絡先の確認・修正を行った。
- (5)地域作業療法推進部と合同会議を開催し、情報共有を行った。
- (6)伊勢崎市介護認定審査員・太田市障害者自立支援判定審査会委員の選定を行った。

〔常設委員会〕

11. 倫理問題検討委員会

委員長 新井健五

- (1)日本作業療法士協会士会・協会倫理連携担当者としての活動（会議への参加、情報提供等）
- (2)日本作業療法士協会倫理委員会との連携（調査等への対応等）
- (3)当県においては倫理問題事案等の発生は無く、委員会としての当該事案への対応の活動はなかった。

12. 災害対応委員会

委員長 関根圭介

- (1)R7 年度群馬県作業療法学会において令和 6 年能登半島地震災害派遣に関するパネル展示を行った。
- (2)R7 年 9 月 25 日大規模災害を想定した災害訓練にて、安否確認および本部立ち上げ訓練を行った。
また、訓練に対するアンケートも行った。
- (3)県士会員に対して、「災害に対する作業療法士の備えに関するアンケート」を実施した。

〔特設委員会〕

13. 生活行為向上マネジメント推進委員会

委員長 佐藤由子

- (1)現職者研修 生活行為向上マネジメント(基礎研修) 1 回を対面形式で、事例検討会 2 回をオンライン形式で開催した。
7 月 6 日(日) 現職者研修 講師：関根圭介、佐藤由子 参加者 19 名
令和 8 年 1 月 30 日、令和 8 年 2 月 20 日 各 2 名計 4 名の発表があり、参加者はそれぞれ、11 名、17 名であった。
- (2)生活行為向上マネジメントに関するホームページの掲載・更新を行った。
- (3)相談窓口については、発表準備の相談はなく、読み替え手続きや終了証に関する問い合わせに応じた。
- (4)全国 MTDLP 推進会議にオンラインで参加した。(10 月 20 日、2 月 22 日)
- (5)栃木県、茨城県との合同開催などは行えなかった。
- (6)その他 認知症支援推進グループへの講師協力に応じた。

14. 運転と作業療法特設委員会

委員長 原 大地

- (1)ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同にて zoom での世話人会を実施した。
- (2)運転と地域移動に関する都道府県士会協力者会議に参加した。

15. 養成校連絡協議会

委員長 小林雅津良

- (1)定期的な会議を開催した。
- (2)厚生労働省指定「臨床実習指導者講習会(都道府県講習会)」を開催・運営した。
- (3)学生会員の募集・管理、県士会関連の情報提供を行った。
- (4)日本作業療法士協会及び群馬県作業療法士会の組織率向上のため、県士会と協働して学生向けの入会促進事業の在り方について継続検討した。
- (5)群馬県作業療法学会の一部ブースを利用し、学生交流会を実施した。

(6) 第 26 回群馬県作業療法学会における学生ボランティア派遣を推進した。

(7) 学生の実習状況に関わるアンケート調査を行った。

16. 福祉用具委員会

委員長 柴田全利

(1) 福祉用具に関する情報収集と群馬県作業療法士会員への情報発信を行った。

(2) 福祉用具に関する群馬県作業療法士会内外からの相談窓口の設置と対応を行った。

① 日本作業療法士協会運営の生活行為工夫情報事業の運営を行った。

② 日本作業療法士協会運営の福祉用具相談支援システムの運営を行った。

③ 日本作業療法士協会生活環境支援室の会議に参加した。

(3) リハビリテーション専門職を対象とした福祉用具に関する研修を行った。

(4) 多職種団体に対しての福祉用具に関する研修を行った。

17. 群馬県作業療法士会創立 40 周年記念式典実行委員会

実行委員長

長谷川明洋

(1) 40 周年記念事業の実施に向け、実行委員会会議を 3 回開催した。

(2) 記念事業の目的、実施方法、内容等について協議を行った。

(3) 協議の結果、当初検討していた記念式典の開催は行わず、別の形で 40 周年を記念する事業を実施する方針とした。

(4) 具体的な事業内容として、40 周年記念リーフレットの作成および記念動画の配信等を実施する方向で検討・調整を進めた。

(5) 今後、関係者との調整を行いながら、40 周年記念事業の実施に向けて準備を進めることとした。

第2号議案 令和7年度歳入歳出決算書・監査報告書

別添1

第3号議案 令和8年度事業計画案及び予算案

1. 会 長

会長 新井健五

1) 重点取組課題と方針

(1) 組織率低下防止に対する取り組みの強化

① 養成校学生に、在学中から県士会に親和性を持ってもらうための取り組みの促進

→ 養成校連絡協議会活動の活性化、養成校との有機的連携（事業の共催等含）、学生会員の増及び学生のうちからの士会活動への参画促進、学生のうちからの県士会主催研修会への参加機会の提供と参加の促進。

「学生は、極めて近い将来の我々の仲間であり、県士会員となってくれる存在である」認識に基づいた活動の強化。

② 高校生だけでなく、小中学校の生徒に対する作業療法の啓発・後方の促進

→ 小中学校を含む次世代及び保護者父兄等や教職員に向けた作業療法の啓発広報の方法や媒体を検討開発するとともに、それらを養成校などとも連携して展開していく（養成校と連携しての啓発・広報イベント等の共催や協力など含む）

→ 高校生などの次世代向けの広報戦略の検討（これまでの広報方法にとらわれない新たな方法の検討や、媒体の活用促進などを行う（「次世代広報戦略検討室（仮）」）。

③ 「女性会員がもっと参加・参画しやすい県士会」づくり、「女性会員がもっと活躍できる」県士会づくり

④ 会員の定年退職急増に伴う退会者の急増に備えた準備

→ 永年会員制度の創設検討等

⑤ 子育て世代にある会員が研修会等々の県士会活動に参加しやすい県士会づくり

⑥ あらゆる世代の作業療法士が県士会活動に参画してもらえるようにするための県士会づくり

⑦ 身近な地域でのつながりを作り、強化し、深められるための県士会づくり

→ ブロック支部の体制と活動の強化（「地域作業療法士会」としての活動）、主任者会議の見直しと強化

⑧ 女性会員の執行部への参画を促進（女性役員数及び三役の更なる増加）

→ 女性会員の執行部への参画を促進（女性役員数の増加）し、女性会員の立場に立った県士会に資する活動へつなげていくためにクォータ制の導入も含めて検討する

(2) 地域で暮らす全ての人の活動や参加を支援し、地域における人のつながりや、人と社会のつながりを作り出す作業療法実現に資する取り組みを促進する

① 地域包括ケアシステムに参画できる作業療法士の体制作り（人員配置）及び人材作りを推進していく

→ 地域密着の活動の重要性の「認識作り」、そうしたことに積極的に参画するための「意識作り」、参画できるようになるための「知識作り」を一層促進するための活動

② 県士会の組織のあり方や活動のあり方の変革

→ 県単位での組織、県単位での活動から、ブロック単位での組織建て（西毛・北中毛・東毛ブロック支部）や活動、さらには二次医療圏域、各市町村（自治体）でのまさに地域に密着した活動へと考え方や体制を大きくシフトさせていく。会員にとっても県民にとっても行政にとっても他団体にとっても、「身近」で、「地域にアジャスト」していける「地域（密着型）作業療法士会」を作り上げていく

→ 主任者会議のあり方を見直すとともに、それに基づいた方法へと変革させ、一層の機能強化を果たす

2) 具体的運営方針

(1) 会員の士会活動への参画を促進していく

- ①身近なところから士会活動および地域支援、地域作業療法への参画意識を高められるようにするとともに、会員が所属している施設間の相互理解や連携の促進、ひいては各会員間の身近なレベルでの連携・交流を促進するために、ブロック支部の機能や役割、活動をいっそう充実化させていく。
- ②士会活動の内容や方針、計画、日本作業療法士協会の方針、さらにはわが国における作業療法士を取り巻く社会情勢や向かうべき方向性などを士会員へ積極的に周知し、身近なところからの職能団体への参画意識を啓発していく。
- ③次代の士会組織を担う人材の発掘や育成を、理事会やブロック支部並びに各部・委員会でしっかりと意識化して行っていく。（自分の後任となれる者の発掘及び育成をそれぞれの役職段階で必ず意図して行っていく）。
- ④会員個々が、士会活動の一環として市町村や県の事業等への積極的な参画ができるように啓発・支援していく。
- ⑤自宅会員の士会活動及び地域での活動への参加促進と、士会における地域人材としての活用の推進。

(2) 広報活動を強化し、一層推進していく

- ①広報機能の強化及び戦略的広報の推進（既存の方法にとらわれない広報戦略の展開を検討・実施）をしていく。
- ②「会員総広報部員」という意識の認識化を推進するような会員向けの啓発活動を推進していく。
- ③地域や社会に向けた公益的活動を積極的に企画するとともに、受託を推進していく。
- ④ホームページを、「閲覧する魅力のあるホームページ（見たくなるホームページ）」、会員向けだけでなく、地域・一般市民、行政や他団体等に向けても作業療法を発信していけるものホームページにしていくとともに、時代に合わせた各種発信ツールの積極的な活用も図っていく。また、スマートフォン対応とし、アクセスの利便性向上を図るとともに、閲覧者の関心に応じた情報を提供できるようにしていく。
- ⑤県士会ニュースを、「読む魅力のある情報発信媒体（読みたくなる紙面）」にしていくとともに、地域（行政職がしっかりと読んでくれることも意識した誌面作り）に向けても作業療法の存在や力をアピールできるような内容にしていく。
- ⑥自治体及び他団体への作業療法及び群馬県作業療法士会の周知及び啓発のための活動を強化していく。
（「声をかけてもらえる（存在を知ってもらえる・使ってもらえる）ようになるための広報」の検討・推進）
- ⑦県民に対するわかりやすく印象的な作業療法及び群馬県作業療法士会の周知を図る活動を推進していく。
（「エントリーしやすくする広報」の検討・推進）
- ⑧将来の作業療法及び作業療法士の発展を支えるための広報を推進していく。今後、小学生や中学生、並びにそうした世代の進路に影響力のある親や祖父母、学校教師もターゲットとした広報戦略を検討展開していく（「作業療法士になりたいくなる広報」「作業療法士を職業の選択肢に入れてもらえるような広報」「作業療法士という仕事に魅力を感じてもらえる広報」の検討・推進）。それらに資する配布物の作成や配布なども行う。

(3) 学術・教育機能を強化していく

- ①「参加したくなる学会」を実現していく。
⇒学会参加者数の増加、魅力あるプログラムの構成、学会機能の強化。
- ②士会での学術・研究活動の推進と会員の研究活動の支援をしていく。
- ③卒前教育との関係の構築（養成校との連携等）を検討していく。
- ④生涯教育システムの枠にとらわれない、職業人・臨床人としての資質向上に必要な研修教育活動を検討・推進していく。会員にとって魅力ある、参加したくなるような研修会の企画実施を行う。
- ⑤生活行為向上マネジメント（MTDLP）の会員への普及啓発及び教育研修を推進していく。
- ⑥地域ケア会議、介護予防・日常生活支援総合事業、地域リハビリテーション活動支援事業、介護予防サロン、認知症初期集中支援チーム、認知症カフェ、特別支援教育関連施策への積極的な関わり等の地域・県民を支え

る様々な事業へ会員が積極的に参画し、機能を発揮できるようにするための教育・研修の充実化

⇒「地域作業療法」の推進のための会員教育の充実化。

⑦会員の認知症対応力を向上させるための活動を最重点課題として位置づけ、展開していく。

(4) 士会組織を強化していく

①理事会及び理事の役割と機能の強化

②理事会と部・委員会・ブロック支部間の相互疎通性を向上させ、理事会と部・委員会の共通認識の形成と課題等の共有化を図っていく。（温度差や時間差を無くしていく）

③部・委員会内の人材育成と登用の促進を一層図っていく（自分の後任となれる者の発掘及び育成をそれぞれの段階で意図して行っていく）。

④部員・委員の確保策の検討をしていく。

⑤定款に基づき各種規約の整備を行っていく。

⑥会計事務所の指導を受けながら適正な法人税務会計を実施していく。

⑦単年度収支バランスの取れた会運営を主導していくことを前提として、今後もそれを維持・実現していくために、現行の会費額となってから10年以上を経過し当時よりも事業の数や規模も大きく増大していく中において現会費収入だけでは単年度支出を賄いきれなくなっていることを鑑み、現行会費額の設定が今後長きにわたり当会を発展的かつ適切に運営していくに当たって適切妥当なものであるのかを引き続き検討していく。

⑧組織率の低下防止および向上を図っていく。

⑨ブロック支部組織及び二次医療圏域ごとの組織体制の強化。

⑩会員管理システムの活用を図り、データ管理の充実化・効率化を図る。

⑪事務局機能の維持・強化。

⑫会員の倫理意識向上及び倫理問題対応体制の整備を図っていく。

⑬入会等に関する手続きの簡便化による会員の入会促進。

⑭養成校と県士会との連携を深めていく（各養成校から理事として県士会運営に参画していただくことで県士会と養成校を直結し、課題や方針等の共有化を進めるとともに連携と協働を促進していくことで、組織率の向上化にも寄与させていく）

⑮自治体担当作業療法士（仮称：市町村担当マネジャー）の配置を進め、各ブロック支部組織と連動して、自治体との連携協働の一層の推進を図っていく。

⑯女性部長や女性役員、さらには若い世代の部員部長や役員を増やし、あらゆる世代性別の会員が抱えている取り組み課題、望むことを県士会にダイレクトに取り込み、活動へとつなげられるようにする。

(5) 会員の福利向上を図っていく

①士会表彰規定に基づき会員の表彰を行う。

②士会員の福利向上に資する研修会や講習会を実施していく。

③優秀養成校学生を表彰し、将来の県士会を担う優秀な人材育成につなげていく。

④安心して県士会活動ができる環境作り（損害保険の円滑な運営）をしていく。

⑤行政や他団体などからの表彰推薦依頼にスムーズに対応するための該当者リストの作成を行う。

⑥会としての元々の設立目的でもあった会員間の親睦を図るための団体としての機能を再発揮するために、感染症の動向などを十分に考慮した上でその機会を充実化させることによって、会員間の交流（知り合う）や親睦（仲良くなる・話せる・相談し合える）を促進させるだけでなく、活動時の会員間の凝集性や連携の向上、情報交換や情報共有体制の強化にもつなげていき、組織力の強化にも活かしていく。

(6) 作業療法士に対する社会的要請への対応を強化していく

①発達障害領域における学校や社会からの要請に積極的に参画していき、成果を出していく。

- ②地域包括ケアシステムに関連する様々な場面や事業への会員の参画を推進するための活動を行っていく。
⇒地域ケア会議、介護予防・日常生活支援総合事業・地域リハビリテーション活動支援事業、介護予防サロン、
認知症初期集中支援チーム、認知症カフェ、認知症家族会等へ会員が参画できる体制（態勢）作りを強化。
- ③生活行為向上マネジメント（MTDLP）を会員が駆使できるようにするとともに、関連多職種に対する認知度も向上させていく。
- ④作業療法士に対する社会的要請を把握するための調査なども必要に応じて適宜検討していく。
- ⑤他職種との相互理解や連携を推進するための研修会等の開催を検討・実施していく。
- ⑥「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」に寄与できる会員人材を育成していく。
- ⑦直接的な作業療法士の関与の無い機会においても、福祉用具の選定や導入に際して作業療法士が関与できるよう、介護支援専門員の団体や自治体における関連部署等への働きかけを行うとともに、資する人材の育成、相談対応体制（態勢）の整備、そのための広報啓発活動も実施していく。

(7)その他

- ①関連団体との連携を強化していく。
- ②群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会組織及びその活動への積極的関与・参画と、群馬県理学療法士協会及び群馬県言語聴覚士会活動との連携を推進していく。
- ③日本作業療法士協会及び他県作業療法士会との連携をすることにより、他県におけるさまざまな運営ノウハウや情報を士会運営に取り入れていく（「日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会 48 団体連携協議会（よんぱち）」への参画及び協会長士会長会議への参加。
- ④関係諸官庁や地域自治体との連携を推進していく。
- ⑤災害発生時対応に関する体制を整備していく（JRAT 群馬や DCT 北関東、県ケアマネ協会、日本作業療法士協会との連携・連動含む）。
- ⑥会員の倫理意識の向上を促進するとともに、倫理問題が発生した場合には迅速かつ適切に情報の整理及び問題の検討を行い再発の防止に資するように会員に周知していく。（必要に応じて日本作業療法士協会倫理委員会との有機的な連携を図る）
- ⑦顧問及び相談役の選任を検討し、必要に応じて委嘱をしていく。
- ⑧県内関連団体への作業療法及び群馬県作業療法士会の広報啓発の意味をこめた渉外活動をしていく。
- ⑨わが国の重要な取り組み課題である自殺予防に資する活動（啓発活動・研修会開催等）を展開し、その機会を活用して作業療法と県士会の広報啓発を行っていく。
- ⑩運転と地域移動に関わる作業療法士の普及・啓発・育成に資する活動。
- ⑪臨床実習指導者講習会の開催。
- ⑫司法領域における作業療法発展に資する活動を行う（前橋刑務所における作業療法支援への参画等）。
- ⑬メンタルヘルスに対して作業療法士が関与できること、外国人への作業療法及び外国人介護職員等との協働、障害者スポーツへのなど参画、介護ロボットなどの時代に合わせたトピックスへの対応。
- ⑭群馬県作業療法士会創立 40 周年記念事業実行委員としての活動を行う。
- ⑮群馬県作業療法士会創立 40 周年記念事業を行う。
- ⑯群馬県作業療法士連盟の設立に向けての準備を行う。

3)業務及び活動

- ①会務の統括（資産・会計の管理、事業の進捗管理、各局・各部・委員会活動への支持・提言・助言等）。
- ②総会の招集。
- ③理事会の招集。
- ④専決事項の処理。

- ⑤県・市町村・保健福祉事務所等の公的機関との折衝・連携（各種委員の推薦依頼等含む）。
- ⑥関係各機関・関連団体との折衝・連携（後援依頼の受託等含む）。
- ⑦一般社団法人日本作業療法士協会との折衝・連携。
- ⑧日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会 48 団体連携協議会（よんぱち）県代表者としての活動。
- ⑨県民に対する作業療法と士会の周知啓発に資する活動。
- ⑩公益活動の推進に資する活動。
- ⑪県地域リハビリテーション協議会委員としての活動。
- ⑫群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会副会長としての活動。
- ⑬その他の渉外活動。
- ⑭学会・研修会等の運営支援。
- ⑮会員の福利厚生の上に資する活動。
- ⑯会員への情報提供。
- ⑰会員の個人情報の管理。
- ⑱作業療法士並びに一般社団法人群馬県作業療法士会の地位の向上に資する活動。
- ⑲県民の健康の増進並びに疾病の予防に資する活動及び、障害者並びに高齢者の自立支援を目的とする活動。
- ⑳県内における会員の倫理問題事案が発生した場合の対応（日本作業療法士協会、行政、報道機関等）
- ㉑その他、定款第 3 条に定めるこの法人の目的を達成するために必要な活動。

2. 事務局

(1) 理事会関係

- ①理事へ理事会の通知及び出欠の報告を受ける。
- ②理事会を開催し議事録を作成する。

(2) 研修会関係

- ①教育部等各部からの連絡(日時、場所、テーマ、講師等)を受ける。
- ②施設長及び講師宛公文書を作成し発送する。

(3) 総会関係

- ①理事会からの決定(日時、場所等)を受け、会員宛文書を作成し発送する。
- ②総会資料(総会次第、旧年度事業報告、決算報告、会計監査報告、新年度事業計画案、予算案等)の作成。
- ③総会の会場を準備する。
- ④会員の出欠の確認と報告(封書連絡)を行う。

(4) 会員名簿関係

- ①理事会、財務部、会員からの連絡を受ける。
- ②会員名簿作成と発送および保管をする。
- ③財務部より賛助会員の情報を得る。

(5) 委嘱状関係

- ①役員(理事、監事、会長、副会長、事務局長、部長)の施設長および本人に委嘱状を送付する。
- ②各部が決定した部員の報告を受け、施設長および本人に委嘱状を送付する。

(6) 日本作業療法士協会関係

- ①会員管理システムを運用し、日本作業療法士協会との連携を図り、会員の入会・退会・異動者の共有を図る。また、会費・役員歴等の必要事項をパソコン入力する。

②日本作業療法士協会からの問い合わせや依頼に回答・協力する(現況調査等)。

(7) 県士会ホームページ関係

- ①研修会、各種イベント等の掲載及び管理を行う。
- ②ホームページの記事掲載及び管理を行う。
- ③問い合わせフォーム等の管理を行う。
- ④ホームページ求人情報の掲載管理を行う。

(8) 司法領域の作業療法について

- ①前橋刑務所へ県士会員を継続して派遣する。
- ②派遣チーム内の情報共有と管理について協議する。
- ③派遣チームの円滑な運営を行う。
- ④派遣チーム内で定期的に会議を実施する。
- ⑤司法領域の作業療法ニーズを調査する。
- ⑥司法領域の作業療法について県士会ニュース等で報告する。

(9) その他

- ①事務局の運営および事務員雇用に関わる処理を行う。
- ②群馬県作業療法士会ニュース・機関誌等を保管する。
- ③群馬県作業療法士会宛の郵便物の処理(受理, 返信, 報告等)・照会事項の処理(受理, 返答, 報告)をする。
- ④ニュース編集委員会への協力(議事録・研修会案内他)をする。
- ⑤群馬県, 市町村, 関連業者からの問い合わせへの対応をする。
- ⑥新入会員の把握, 入会の勧誘を行う。
- ⑦群馬県作業療法士会員宛てに書類・お知らせ等発送作業を行う。
- ⑧一般社団法人に関する登記変更がある場合に手続きを行う。
- ⑨活動費支払い済会員へ源泉徴収票を作成し本人・在住の市町村へ発送, また納税を行う。
- ⑩休業又は失業している正会員に対して, 休会制度の導入について規約の整備を行う。
- ⑪事務局員就業規定に関する規約の制定を行う。

3. 財務部

- (1) 令和7年度予算に関する収支管理を行う。
- (2) 県士会費の集金を行う。(通帳引き落としデータ作成を行う。)
- (3) 関連業者に広告・賛助会員の募集を行い, 広告料・賛助会費の管理を行う。
- (4) 事務員給与, 会費引落としにかかる各種手続き, 事務局運営に関する金銭管理と出納の一部を行う。
- (5) 事務局と連携し, 納税に関する手続きの一部を行う。
- (6) 各部, 委員会, グループとともに会計を行う。
- (7) 各部, 委員会, グループと連携し前年度までの交通費及び活動費の振込みを行う。

4. 多世代企画サポート室

- (1) 事務局傘下機関の「多世代企画サポート室」として活動を開始する。
- (2) 年6回の対面による定例会議を実施する。
- (3) 広報部と連携し, 県士会のInstagramの運用を継続する。学生, 20代30代をターゲットとした内容や研修会案内, 部員募集を行う。
- (4) 東毛, 西毛の主任者会議で職場環境改善のための企画を検討する。

- (5) 福祉厚生部と連携し、子育て世代向け企画を立案、実施する。
- (6) 県士会への参画意識を調査するため、学会、研修会におけるアンケートを実施する。

5. 教育部

【研修会企画グループ】

- (1) 以下の研修会を企画・運営を行う。
 - ① 現職者共通研修（全 8 テーマ）
 - ② 現職者選択研修（身体障害領域）
 - ③ 基礎ポイント研修（2 回）
 - ④ 新人症例発表会
- 2026 年 7 月 19 日 「令和 8 年度新人症例発表会」
- (2) 2026 年度の各研修会開催に向けて準備を行う。
 - (3) 各ブロックで研修運営が継続できるように機能強化を図る。
 - (4) 2025 年度から 2027 年度の新生涯教育制度移行期間の準備を行う。
 - (5) 研修会受付システムの Peatix を各ブロック管理の体制強化を継続する。

【生涯教育システムグループ】

- (1) 研修会・県学会参加者の名簿管理を行う。
- (2) 日本作業療法士協会への受講ポイントの申請、管理を行う。
- (3) 士会裁量ポイント該当者を日本作業療法士協会へ申請する。
- (4) SIG 研修会に対して日本作業療法士協会への申請方法を伝達する。
- (5) 生涯教育制度についての会員からの問い合わせに対応していく。
- (6) 日本作業療法士協会生涯教育制度委員会との協力を行う。
- (7) 2025 年度から 2027 年度の新生涯教育制度移行期間の準備を行う。

6. 学術部

- (1) 県士会における学術活動の各種支援と運営、会議等を実施する。
- (2) 県士会における学術活動に関連する事業について、各部と連携調整を行う。

【機関誌編集グループ】

- (1) 機関誌編集グループの編集会議を開催する。
- (2) 機関誌「ぐんま作業療法研究 Vol. 29, 2026」を発行する。
 - ① 投稿論文の募集と査読・編集業務を実施する。
 - ② 巻頭言・その他掲載記事の原稿依頼・編集業務を実施する。
 - ③ 学会誌作成を支援する。
 - ④ 学術誌 作業療法の改変に合わせて、執筆要領を修正する。

【学術研究グループ】

- (1) 第 28 回群馬県作業療法学会について、実行委員会の要望に応じて、一般演題の管理、査読者への連絡、座長の依頼を行う。
- (2) 県士会員の国内、国際学会での演題発表・登録、発表を支援する。
- (3) 学術支援として、半年コースの少人数勉強会をオンラインで開催する。

【学会支援グループ】

- (1) 第 28 回群馬県作業療法学会開催・運営について、実行委員会の要望に応じて下記の支援を行う。

- ① 学会運営スケジュール管理を実施する。
 - ② 学会運営に関連する文書データの作成の支援と保管を実施する。
 - ③ 群馬県作業療法学会のホームページ・Facebook・Instagram の管理業務を実施する。
- (2) 第 28 回群馬県作業療法学会開催・運営について、実行委員会との連携調整を行う。

7. 広報部

【公益事業グループ】

- (1) 当会主催での広報活動、内容等の検討予定。他団体とのコラボレーション企画も検討していく。
- (2) 県内の高校生に向けて、オンラインを活用した OT 紹介や質疑応答など交流会イベント開催を予定。
- (3) 小中高生の若年層への広報活動について検討予定。
- (4) 広報活動に向けてノベルティグッズを作成する。

【ニュース編集グループ】

- (1) 当会主催での広報活動、内容等の検討予定。他団体とのコラボレーション企画も検討していく。
- (2) 県内の高校生に向けて、オンラインを活用した OT 紹介や質疑応答など交流会イベント開催を予定。
- (3) 小中高生の若年層への広報活動について検討予定。
- (4) 広報活動に向けてノベルティグッズを作成する。

【広報企画グループ】

- (1) 広報部各グループ（主に公益事業グループ）の活動に関わる情報収集を行う。
- (2) 群馬県作業療法士会で使用するノベルティの作成を 2～3 個行う。

7. 福利厚生部

- (1) 群馬県作業療法士会会員に対し、県士会組織の説明や各部局紹介のスライドショーを上映し、県士会員へ情報の周知をする。
- (2) 各表彰を実施、および表彰を行う。
 - ① 群馬県作業療法士会新人症例発表会新人優秀演題賞
 - ② 群馬県作業療法士会優秀演題賞、群馬県作業療法士会学術奨励賞
 - ③ 群馬県作業療法士会優秀学生賞
- (3) 福利厚生部主催の研修会を開催する。
 - 資産形成などライフワークに関する研修会の企画、運営を行う。
- (4) チャリティーイベント「リレーフォーライフ」に参加し、イベント参加者と県士会会員の交流を促進する。
- (5) 多世代企画サポート室と共同して、子育て世代会員向けの企画を行っていく。
- (6) 名誉会員表彰のため、表彰規定の作成等、取りまとめ整備する。
 - 各団体や行政機関等の功労者表彰について、取りまとめ整備する。

8. 地域作業療法推進部

【地域包括ケア推進グループ】

- (1) グループ内の進捗を把握するための定例会議を開催する。
- (2) 作業療法士参画のための市町村担当者配置事業を継続する。
 - ① 地域局との情報共有・意見交換を目的とした会議を開催する。
 - ② 日本作業療法士協会が主催する地域支援事業会議へ参加する。
 - ③ 関東・信越ブロック（B ブロック）会議へ参加する。

④行政や住民の方に対し作業療法士の認識や理解を深めるべく、広報物の作成や配布を行い作業療法士の地域参画に向けた広報活動を行う。

⑤市町村・作業療法士向けのアンケート調査により、地域支援事業参画状況を把握する。

(3)介護予防に資する人材育成研修を継続する。

令和8年度群馬県地域医療介護総合基金企業補助金が採択された場合、作業療法士や地域支援に携わる職種を対象に、地域支援事業に資する指導者・人材育成研修を開催する。

(4)市町村連携を推進するための取り組み

①地域で行われているイベントや行政からの依頼を受け、広報活動や予防事業への参画を推進する。

②士会内連携を推進し、行政や他職種に対し作業療法士の周知を図り、地域への参画を促すために広報活動やイベントへの参加を行う。

③他士会との連携を図り、先進的に行われている事業の見学や意見交換会等を検討する。

(5)ナイトセミナーや座談会等、他職種連携や互いの職種の価値観を共有するため、他職種を交えた研修や意見交換会を開催する。

【認知症支援推進グループ】

(1)認知症ケア資質向上のための研修事業を実施する。

(2)毎月のつどいの参加・講座やイベントの協力など、認知症の人と家族の会との連携を継続する。

(3)会員に対し認知症の方への関与状況等の実態調査を予定する。

【発達支援推進グループ】

(1)特別支援学校センター的機能強化事業 外部専門家配置事業を継続する。

①地域小中学校および幼稚園保育園への派遣

②講師依頼への対応

③ケース検討会議への出席

(2)地域への作業療法士の参画を推進する。

①高崎市学童保育への派遣および同行研修

②5歳児健診についての問い合わせ対応

(3)作業療法士の人材育成を行う。

①定期勉強会

②外部専門家派遣事業での同行研修

③5歳児健診参画へ向けての人材育成研修会

④学童保育に向けた人材育成研修会および同行研修

(4)発達支援推進GのHP、Instagram、LINE公式アカウントの運営を継続、定期的に更新する。

(5)メーリングリストでの情報発信（定期勉強会開催案内・議事録送付、求人情報など）を行う。

【精神科領域推進グループ】

(1)人材育成の研修会を開催する。

①作業療法士向けのオンライン研修会

②外部団体との対面での他職種合同研修会

③交流、ネットワーク作り

(2)他領域の作業療法士を含む病院・施設見学会や交流会を実施する。

(3)オンラインで他県士会の作業療法士を含む精神科OTR交流会を実施する。

(4)SNSアカウント運用を継続する。

(5)こころのふれあいフェスタ、ソーシャルバスケットボールキャラバン等の地域イベントへの運営協力を継続する。

9. 地域局

【地域局基本方針】

(1) 地域局では、県士会と主任者の連携強化と地域多職種との協働を軸に、地域における作業療法サービスの質向上を図る。また、会議・研修の効率化とオンライン活用を継続し、参加しやすい運営体制を構築する。「地域課題の見える化」と「実践共有」を通じて、地域局らしい活動を推進する。

(2) 以下の企画・運営を行う。

① 県士会全体の主任者ランチョン交流会（群馬県作業療法学会に合わせて開催）

【北中毛ブロック支部】

(1) 主任者会議の機能強化ブロック内の情報共有を行い、地域課題を整理・発信できる体制をつくるため以下の企画・運営を行う。

① 二次医療圏の課題・成功事例の共有

② Zoom 併用による参加しやすい環境づくり

③ 主任者会議の開催(12 月第 3 週予定)

(2) 地域連携の推進、各ブロック・県士会・主任者・行政等との協働を強化として以下の企画・運営を行う。

① 地域局会議(年 6 回予定)

② 行政(地域包括)との顔の見える関係作り

③ 地域作業療法推進部と合同会議

④ 各施設、主任者の情報更新フォーム作成(6 月)

⑤ 二次医療圏担当との情報共有会議(7 月第 4 週)

⑥ 前橋市地域リハビリテーション推進協議会への出席

【西毛ブロック支部】

(1) 以下の企画・運営を行う。

① 西毛ブロック主任代表者会議(年 2 回)・情報交換会(年 1 回)を行う。

② 第 28 回群馬県作業療法学会において、主任者交流会を行う。

③ 地域事業への参加・協力を行う。

(2) 定期的に地域局会議を行う。

(3) 事務局と連携し西毛ブロック支部主任代表者連絡先の確認・修正を行う。

(4) 西毛ブロックにおける地域の地域支援事業に関する課題を抽出し、群馬県作業療法士会関連部署や関連団体と意見交換、情報共有を行う。

(5) 群馬県作業療法士会主催研修等の情報共有ならびに他職能団体研修の案内を行う。

(6) 県内各市町村における作業療法士の担当者配置事業の取り組みに関して、地域作業療法推進部や関連団体との意見交換、情報共有を行う。

(7) 第 28 回群馬県作業療法学会の開催に向けた準備を学会実行委員と協働する。

(8) 理事会、各部署との相互疎通性の向上を図る。

【東毛ブロック支部】

(1) 以下の企画・運営を行う。

① 東毛ブロック主任代表者会議(年 1 回)・情報交換会(年 1 回)を行う。

② 第 28 回群馬県作業療法学会において、主任者交流会を行う。

③ 地域事業への参加・協力・調整を行う。

(2) 定期的に地域局会議を行う。

- (3) 東毛ブロック支部主任代表者連絡先の確認・修正を行う。
- (4) 東毛ブロックにおける地域の地域支援事業に関する課題を抽出し、群馬県作業療法士会関連部署や関連団体と意見交換、情報共有を行う。
- (5) 群馬県作業療法士会主催研修等の情報共有ならびに他職能団体研修の案内を行う。
- (6) 県内各市町村における作業療法士の担当者配置事業の取り組みに関して、地域作業療法推進部や関連団体との意見交換、情報共有を行う。
- (7) 第 29 回群馬県作業療法学会(第 11 回北関東信越ブロック学会)の開催に向けた準備を学会実行委員と協働する。
- (8) 理事会、各部署との相互疎通性の向上を図る。

10. 第 28 回群馬県作業療法学会

学会長 吉岡和哉

「架け橋 ―みんなのせいかつと参加をつなごう―」をテーマに 9 月 27 日(日)群馬パース大学で開催する。

[常設委員会]

11. 倫理問題検討委員会

- (1) 県内における会員の倫理問題に関する窓口を担当する。
- (2) 県内における会員の倫理問題事案が生じた際の情報収集・検討と理事会への上申を行う。
- (3) 県内における会員の倫理意識向上に向けた取り組みを行う（研修会の開催や会員及び主任者への情報発信等）。
- (4) 県内における作業療法士による倫理問題事案発生時の対応体制の整備（対応フロー図や指針作成、書類整備）。
- (5) 県内における作業療法士による倫理問題事案発生に伴う日本作業療法士協会倫理委員会との連携及び対応。
- (6) 日本作業療法士協会士会・協会倫理連携担当者としての活動（会議への参加、会員への情報提供等）
- (7) 日本作業療法士協会倫理委員会活動への参画及び連携（調査等への対応等）

12. 災害対応委員会

- (1) JRAT 群馬代表者会議にて会則の作成、各団体との協定の締結、研修会の開催等の準備を行う。
- (2) 日本作業療法士協会と共同で大規模災害を想定した災害訓練を行う。

[特設委員会]

13. 生活行為向上マネジメント推進委員会

- (1) 現職者研修 生活行為向上マネジメント(基礎研修) 1 回を対面形式で、事例検討会 2～3 回をオンライン形式で開催する。
- (2) 群馬県作業療法学会で、MTDLP 啓蒙を行う。
- (3) 生活行為向上マネジメントに関するホームページの掲載・更新を行う。
- (4) 生活行為向上マネジメント啓蒙用のフローチャートを見直し会員に周知する。
- (5) MTDLP 全国推進会議に参加し、新たな情報を得て県士会に活かす。
- (6) 当県士会の他のグループや委員会、及び、他県士会と、研修会企画・運営や講師派遣などで協力し合う。

14. 運転と作業療法特設委員会

- (1) ぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と連携し、群馬県内の自動車運転再開支援に関する協議を行う。
- (2) 警察関係者及び教習所関係者、行政機関との連携を行う。
- (3) 自動車運転再開支援ハンドブックの改定を行う。

15. 養成校連絡協議会

- (1) 定期的な会議を開催する。
- (2) 厚生労働省指定「臨床実習指導者講習会(都道府県講習会)」を開催・運営する。
- (3) 学生会員の募集，県士会関連の情報提供を行う。
- (4) 日本作業療法士協会及び群馬県作業療法士会の組織率向上のため，県士会と協働して学生向けの入会促進事業の在り方について継続検討する。
- (5) 第 26 回群馬県作業療法学会で学生ボランティアを募集し，派遣調整を行う。
- (6) 県内 5 養成校の作業療法学生を対象に学生交流会を実施する。
- (7) 学生の実習状況に関わるアンケート調査を行って，県士会ニュースで報告する。

16. 福祉用具委員会

- (1) 福祉用具に関する情報収集と群馬県作業療法士会員への情報発信を行う。
- (2) 日本作業療法士協会の福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業を運営する。
- (3) 日本作業療法士協会生活環境支援室の会議に参加する。
- (4) 日本作業療法士協会制度対策部との連携窓口として，福祉用具に関する制度設計などの案件に対応していく。
- (5) 行政・多職種団体に対しての福祉用具に関する作業療法の広報活動を行う。
- (6) 行政・多職種団体からの福祉用具に関する研修依頼の対応を行う。

17. 群馬県作業療法士会創立 40 周年記念事業実行委員会

- (1) 40 周年記念事業の実施に向け，事業内容の具体化および準備を進める。
- (2) 記念リーフレットの作成を行う。
- (3) 記念ノベルティーの作成を行う。
- (4) 県士会ニュースへの記事投稿を行う。
- (5) 40 周年の節目を会員に広く周知・共有できるよう，効果的な発信方法について検討・実施する。

令和8年度予算案

収支計算書

自 2026年4月1日

至 2027年3月末日

＜収入＞

(単位:円)

勘定科目	今年度予算額A	前年度予算額B	差引(A-B)	備考
新入会員費 振込収入	400,000	500,000	-100,000	
県士会費収入	6,720,000	7,200,000	-480,000	
雑収入	390,000	355,000	35,000	
銀行利子	20,000	5,000	15,000	HP求人広告収入含
ニュース広告収入	10,000	20,000	-10,000	
賛助会費収入	0	0	0	
教育部研修参加費収入		120,000	-120,000	
MTDLP研修会	80,000	60,000	20,000	
県学会参加費収入	230,000	100,000	130,000	
実習指導者講習参加費収入	50,000	50,000	0	
前年度立替分	0	0	0	
許諾抄録利用料	3,000	0	3,000	
群馬県事業補助金	243,000	583,800	-340,800	R7年度分として(認知症支援グループ)
前年度繰越金収入	9,998,414	10,420,398	-421,984	
定期預金取崩収入	0	0	0	
収入合計	17,751,414	19,059,198	-1,307,784	

＜支出＞

管理費

(単位:円)

勘定科目	今年度予算額	前年度予算額	差引	備考
県士会運営費	3,667,800	3,562,800	105,000	
通信費	800,000	650,000	150,000	郵送価格の上昇
印刷費	430,000	390,000	40,000	インクトナー等
消耗品費	40,000	50,000	-10,000	
備品費	30,000	45,000	-15,000	
会議費	12,800	12,800	0	年6回Zoom開催 ￥800×4人×4回 事務局会議
事務局運営費	2,350,000	2,410,000	-60,000	
会場借上費	5,000	5,000	0	総会会場費
事業・運営費	0	0	0	
多世代企画サポート室	61,000	0	61,000	
通信費	0	0	0	
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
会議費	31,440	0	31,440	年6回、交通費込み
事業運営費	29,133	0	29,133	研修会3回(連携):主任者会議2回(地域局)、子育て世代1回(福利厚生部)
予備費	427	0	427	
理事会	100,800	91,200	9,600	
通信費	0	0	0	
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
会議費	100,800	91,200	9,600	年6回Zoom開催 ￥800×21人×6回
会場借上費	0	0	0	
財務部	314,000	314,000	0	
通信費	230,000	230,000	0	引き落とし手数料、ネットバンキング手数料、振込手数料
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	60,000	60,000	0	弥生会計
会議費	24,000	24,000	0	決算作業、監査、部会
会場借上費	0	0	0	
学術部	595,000	695,000	-100,000	
(機関誌編集グループ)	565,000	675,000	-110,000	
通信費		60,000	-60,000	事務局からの郵送費
印刷費	550,000	600,000	-50,000	機関誌・学会誌(1200部)、別刷5編、学会ポスター(2種)印刷費
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	用紙、切手代等
原稿執筆謝礼金	5,000	5,000	0	機関誌巻頭言等
会議費	10,000	10,000	0	年3～4回Zoom開催、校正作業時
会場借上費	0	0	0	
(学術研究グループ)	20,000	10,000	10,000	
通信費	0	0	0	
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	

備品費	20,000	10,000	10,000	ポスター印刷用クロス紙ロール13000円、事務物品、書籍
会議費	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	
(学会支援グループ)	10,000	10,000	0	
通信費	0	0	0	群馬県作業療法学会HP運用費は学会予算を使用予定
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
会議費	10,000	10,000	0	群馬県作業療法学会役員会の開催など
会場借上費	0	0	0	
教育部	782,500	762,500	20,000	
(研修会企画グループ)	650,000	750,000	-100,000	
事業・運営費	320,000	320,000	0	
通信費	30,000	30,000	0	
印刷費	100,000	100,000	0	新人症例発表会冊子代など
消耗品費	10,000	10,000	0	
備品費	20,000	120,000	-100,000	
会議費	110,000	110,000	0	対面での研修会運営や会議など
会場借上費	60,000	60,000	0	研修12回×運営費5千円で計算
(生涯教育システムグループ)	132,500	12,500	120,000	
通信費	3,500	3,500	0	
印刷費	1,000	1,000	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	125,000	5,000	120,000	生涯教育制度管理用のPC1台を購入
会議費	3,000	3,000	0	
会場借上費	0	0	0	
広報部	905,000	555,000	350,000	
(広報企画グループ)	350,000	0	350,000	
事業・運営費	350,000	0	350,000	公益事業Gと合同で活動
通信費	0	0	0	
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
会議費	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	
(ニュース編集グループ)	470,000	470,000	0	
通信費	5,000	5,000	0	
印刷費	465,000	465,000	0	1回分印刷費 ¥ 113,850 年4回(4,7,10,1月)発行予定1回分1150部印刷
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
会議費	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	
(公益事業グループ)	85,000	85,000	0	
事業・運営費	65,000	65,000	0	イベントでのOT啓蒙活動、ノベルティグッズ作成等
通信費	20,000	20,000	0	イベント案内発送費(各高校宛等)
印刷費	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
会議費	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	
福利厚生部	395,200	365,200	30,000	
事業費	342,600	332,600	10,000	保険代95,000円含む 減免事業160,000円含む研修会開催のため
通信費	3,000	3,000	0	
印刷費	20,800	20,800	0	表彰状印刷代
消耗品費	8,000	8,000	0	
備品費	0	0	0	
会議費	800	800	0	
会場借上費	20,000	0	20,000	多世代企画サポート室協同企画、研修会開催のため
地域作業療法推進部	1,906,500	1,974,500	-68,000	
(地域包括ケア推進グループ)	647,000	527,000	120,000	
事業・運営費	150,000	250,000	-100,000	令和8年度総合確保基金事業申請予定広報活動費、産業保健分野にかかる活動費
通信費	40,000	30,000	10,000	チラシ送料、発送にかかる手数料
印刷費	250,000	200,000	50,000	研修会チラシ、ワンポイントアドバイス冊子印刷費
消耗品費	2,000	2,000	0	封筒、ノリなど
備品費	0	0	0	
会議費	200,000	40,000	160,000	日本作業療法士協会主催地域支援事業会議への参加費、グループ員会議参加費
会場借上費	5,000	5,000	0	
(発達支援推進グループ)	616,500	679,500	-63,000	

事業・運営費	456,500	465,000	-8,500	定期勉強会、5歳児健診・学童研修会等、準備・外部講師謝金、スタッフ謝金など
通信費	25,000	25,000	0	ホームページ維持費、振り込み手数料
印刷費	5,000	1,500	3,500	研修会資料印刷
消耗品費	5,000	8,000	-3,000	名札 封筒等
備品費	15,000	20,000	-5,000	カメラ付きマイク(オンライン研修会対応機材)
会議費	50,000	60,000	-10,000	研修会準備企画会議(対面 2回×20名)、講師会議費
会場借上費	60,000	100,000	-40,000	対面式6回 オンライン1回(6回群馬パース大学)
(認知症支援推進グループ)	390,000	550,000	-160,000	
事業・運営費	188,000	550,000	-362,000	令和8年度総合確保基金事業を申請研修会会場費、会議費、賛助会員費など含む
通信費	130,000	0	130,000	
印刷費	60,000	0	60,000	チラシ、鏡文印刷
消耗品費	5,000	0	5,000	文具など
備品費	0	0	0	
会議費	7,000	0	7,000	食糧費
会場借上費	0	0	0	
(精神科領域推進グループ)	253,000	218,000	35,000	
事業・運営費	100,000	80,000	20,000	研修会、講師料、情報交換会等
通信費	3,000	3,000	0	
印刷費	20,000	20,000	0	チラシ印刷
消耗品費	10,000	5,000	5,000	
備品費	0	0	0	
会議費	70,000	60,000	10,000	600円×10人×10回、食糧費、交通費等を含む
会場借上費	50,000	50,000	0	
地域局	302,000	190,500	111,500	
(北中毛ブロック支部)	203,000	81,500	121,500	
事業・運営費	150,000	30,000	120,000	ランチョン形式での主任者交流会(食糧費1500円×100人)
通信費	0	0	0	
印刷費	3,000	1,500	1,500	用紙代等
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
会議費	50,000	50,000	0	地域局会議(6回)、北中毛ブロック内会議(3回)、地域作業療法推進部合同会議(2回)
会場借上費	0	0	0	各会議はオンラインで開催予定、交流会については学会の一部として計算
(西毛ブロック支部)	54,000	60,500	-6,500	
事業・運営費	30,000	30,000	0	情報交換会運営費
通信費	0	0	0	
印刷費	1,000	1,500	-500	用紙代等
消耗品費	1,000	1,000	0	
備品費	0	0	0	
会議費	12,000	18,000	-6,000	食糧費200円×30名×2回(主任代表者会議)
会場借上費	10,000	10,000	0	情報交換会会場費として(対面の場合)
(東毛ブロック支部)	45,000	48,500	-3,500	
事業・運営費	30,000	30,000	0	講師謝金、研修運営費、交通費等
通信費	0	0	0	
印刷費	1,000	1,500	-500	用紙代等
消耗品費	1,000	1,000	0	事務物品
備品費	0	0	0	
会議費	3,000	6,000	-3,000	茶菓子代200円×15名×2回
会場借上費	10,000	10,000	0	主任者会議兼情報交換会会場費
倫理問題検討委員会	1,500	1,500	0	
通信費	500	500	0	
印刷費	0	0	0	
消耗品費	500	500	0	
備品費	0	0	0	
会議費	500	500	0	
会場借上費	0	0	0	
MTDLP推進委員会	120,000	132,000	-12,000	
事業・運営費	100,000	100,000	0	講師謝礼・推進会議参加
通信費	5,000	20,000	-15,000	資料郵送費
印刷費	1,000	1,000	0	紙代
消耗品	1,000	1,000	0	事務用品
備品費	0	0	0	
会議費	8,000	5,000	3,000	対面開催の場合必要
会場借上費	5,000	5,000	0	対面開催の場合
運転と作業療法特設委員会	81,000	81,000	0	
事業・運営費	30,000	30,000	0	運転と作業療法 委員会運営
通信費	8,000	8,000	0	
印刷費	2,000	2,000	0	資料印刷
消耗品費	0	0	0	

備品費	0	0	0	
会議費	1,000	1,000	0	
会場借上費	40,000	40,000	0	研修会会場費
養成校連絡協議会	45,000	45,000	0	
事業・運営費	0	0	0	
通信費	5,000	5,000	0	
印刷費	0	0	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
備品費	0	0	0	
会議費	35,000	35,000	0	学生交流会運営費用含む
会場借上費	0	0	0	
福祉用具委員会	41,500	46,500	-5,000	
事業・運営費	26,000	26,000	0	他団体受託研修 講師謝礼
通信費	1,500	1,500	0	福祉用具相談支援システム資料郵送代 ,クリアファイル郵送代
印刷費	0	5,000	-5,000	
消耗品費	2,000	2,000	0	事務用品
備品費	0	0	0	
会議費	12,000	12,000	0	3名×1000円×4回
会場借上費	0	0	0	
40周年記念式典特設委員会	700,000	125,000	575,000	
事業・運営費	615,000	30,000	585,000	HP特設ページ開設、ポスター作製等
通信費	10,000	10,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	資料印刷代
会議費	40,000	50,000	-10,000	会場下見等含む
予備費	15,000	15,000	0	
県士会学会	733,000	600,000	133,000	
臨床実習指導者講習会	230,000	230,000	0	
災害対応委員会	2,000	2,000	0	
選挙管理委員会	5,000	5,000	0	郵送代
渉外費	200,000	150,000	50,000	POS連絡協議会会費 会員数×¥100、JRAT活動費3万円他
部員謝金、交通費	940,000	800,000	140,000	
予備費	50,000	50,000	0	
計	12,097,800	10,778,700	1,319,100	

収入	17,751,414
支出	12,097,800
次年度繰越金	5,653,614

(固定資産)
群馬銀行定期 ¥3,000,000

第4号議案 第29回群馬県作業療法学会 学会長承認の件

学会長：今村 雄二 氏（株式会社孫の手）

第5号議案 その他

【資料】

令和7年度 役員名簿

令和7年度 事務局保管文献一覧

令和7年度 ニュース交換団体一覧

令和7年度 入会・転入・転出・退会

・令和7年度役員名簿

一般社団法人 群馬県作業療法士会 2025年度 役員名簿

会 長：新井 健五

副会長：勝野 恵、山口 智晴、柴田 全利、長谷川 明洋(事務局長)

理 事：池田 史恵、石森 卓矢、今村 雄二、小此木 諭、木村 昌博、高坂 駿、小林 雅津良、設楽俊史、都丸 直樹、中嶋 有亮、山浦 卓哉、柳井 明子、吉岡 和哉、李 範爽

監 事：唐澤 一男、村田 和香

事務局 局長 長谷川 明洋

【事務局】 副事務局長 石森卓矢 理事 中嶋 有亮

近藤真知子

【財務部】 理事 小林雅津良 部長 高橋 久美子

石岡 あずさ、建石 啓太、町田 観誠、女部口 雅子

学術局 局長 勝野 恵

【教育部】 理事 勝野 恵、今村 雄二 部長 今井 卓也 副部長 黒田 梨紗 会計統括 山ノ内 拓実

<研修会企画グループ> グループ長 粕川 将志

[北中毛] ブロック長 山ノ内 拓実 (副) 鈴木 眞衣、(会計) 粕川 将志

鳴海 洋平、矢吹 航太郎、中村 優華、岡田 華乃、佐藤 杏、水上 将来、木暮 友里夏、大塚 昂弘、眞藤 直輝、清水 野乃花、鈴木 眞衣、藤岡 依吹、岩井 花、林 香乃、滝沢 伊吹、鈴木 杏奈、青木 江里奈、森脇 愛梨沙、靱山 和美、金井 一輝、横坂 明日香、小林 昭博

[東毛] ブロック長 須田 修之 (会計)

糸井 一訓、門脇 一樹、長谷川 立樹、鈴木 翔、金高由奈、原澤 良生

[西毛] ブロック長 吉田 将英 (会計) 齋木秀夫

伊藤 美友、池田 光季、桑原 眞歩、吉田 将英、町田 由妃子、大下 妃奈、川村 隆夫

<生涯教育システムグループ> グループ長 戸部 沙代理 小柏 愛子、松本 哲朗

【学 術 部】 理事 李 範爽、吉岡 和哉 部長 近藤 健

＜機関紙編集グループ＞ グループ長 柳井 亮人、坂元 萌実、中嶋 健瑠

＜学会支援グループ＞ グループ長 秋山 稜登、赤石 伊吹、笹谷 朋弘

＜学術研究グループ＞ グループ長 佐藤 里沙、藤井 洋有、山下 遊平

〔査読員〕 秋山 稜登、阿部 真也、石井 良和、石代 敏拓、石森 卓矢、今井 卓也、牛込 祐樹、大塚 昂弘、栗原 純一、高坂 駿、小林 昭博、近藤 健、近藤 真知子、佐藤 里沙、柴田 かおり、柴田 全利、下田 佳央莉、高橋 洋輔、滝沢 伊吹、竹原 敦、田中 浩二、十枝 はるか、生須 義久、野口 直人、馬場 順子、原 大地、平石 武士、深澤 彩、藤井 洋有、松井 明、宮寺 寛子、村田 和香、柳井 亮人、山口 智晴、山下 遊平、吉岡 和哉、李 範爽、

事業局 局長 山口智晴

【広 報 部】 理事 都丸 直樹 部長 土岐 新太

＜公益事業グループ＞ グループ長 中澤浩幸（会計）茂木正樹

蟻川 由衣、重原 光、神保 華、高橋 雄、羽子田 隼兵、馬場 早希、林 杏華、広瀬 綾乃、松井 亜実、茂木 正樹

＜ニュース編集グループ＞ グループ長 大脇 宗雅、白倉 研吾、関 仁紀、辻千鶴子

＜広報企画グループ＞ グループ長 金子 圭佑、岡村 直哉、黒澤 匠太、堀越 亮平

【地域作業療法推進部】 理事 高坂 駿、山浦卓哉、吉岡和哉（発達支援推進グループ担当） 部長 佐藤 琢也

＜地域包括ケア推進グループ＞ グループ長 山口一幸

市村 友香莉、小澤 貴明、柿沼 明里、小柳 慶起、榊原 望、笹谷 朋弘、芝地 杏花、須藤 明紀、関口 謙人、高橋 慎太郎、中嶋 有亮、早川 和穂、村松 卓哉、宮寺 寛子

＜認知症支援推進グループ＞ グループ長 笹谷朋弘

井浦優太郎、入澤瑞穂、小此木諭、神宮陽子、眞藤直輝、竹原敦、野村和也、松井紀子、吉田千乃

＜発達支援推進グループ＞ 理事 吉岡 和哉、柳井明子 グループ長 吉岡 和哉 副グループ長 中嶋 鮎

北部・東部担当ブロック長 六本木温子 中部担当ブロック長 田口麻耶 西部担当ブロック長 萩原絵梨

上原 孝大、勝野 恵、金澤 由季菜、塩ノ谷 直輝、清水 莉那、千葉 祐一郎、沖村 南美、信澤 直美、原澤 良生、福山 竜司、矢吹 葉澄、吉澤 陽菜

＜精神科領域推進グループ＞ グループ長 米原 浩貴

浅黄 真紀子、大嶋 陽子、小野寺 美紀、鹿渡 麗羅、岸 祥穂、篠原 明人、鈴木 杏奈、鈴木 一広、滝沢 伊吹、馬場 順子、藤井 未沙、藤生 泰嘉、星名 桂太、星野 和馬、松寄 由莉

【福利厚生部】 理事 設楽 俊史、小此木 諭 部長 小田俊一

石川 志穂、川田 佑奈、下田 葵、中澤 郁也、中野 真実、古市 真央

地域局 局長 柴田全利

理事 ＜北中毛ブロック＞木村 昌博、＜東毛ブロック＞石森 卓矢、＜西毛ブロック＞都丸 直樹

支部 ＜北中毛ブロック＞小此木 諭、藤田 伊津美＜東毛ブロック＞今村 雄二、＜西毛ブロック＞山浦 卓哉

＜常設委員会＞

【選挙管理委員会】 委員長 須藤 愛美

【倫理問題検討委員会】 委員長 新井 健五、勝野 恵、柴田 全利、長谷川 明洋、山口 智晴

【災害対応委員会】 委員長 関根圭介 理事 設楽俊史

新井 健五、柴田 全利、勝野 恵、山口 智晴、長谷川 明洋、池田 史恵、石森 卓矢、今村 雄二、小此木 諭、木村 昌博、高坂 駿、小林 雅津良、都丸 直樹、中嶋 有亮、山浦 卓哉、柳井 明子、吉岡 和哉、李 範爽、信澤 直美、宮寺 寛子、春山 滋里

＜特設委員会＞

【生活行為向上マネジメント委員会】 委員長 佐藤 由子 理事 池田 史恵

池上 公喜、石田 翔悟、小池 岳大、小坂橋 誠、佐藤 里沙、下田 佳央莉、関根 圭介、村松 卓哉

【運転と作業療法特設委員会】委員長 原 大地 理事 李 範爽

井上 高志、内田 哲文、大西 真史、小川 佳範、栗原 純一、黒澤 匠太、黒田 梨紗、設楽 俊史、関 修司、長谷川 明洋、平石 武士、堀 雄飛、山下 拓海、山田 智子

【養成校連絡協議会】理事 小林雅津良

梶田 敦子、木村 昌博、高坂 駿、近藤 健、田中 浩二、吉岡 和哉、李 範爽

【福祉用具委員会】委員長 柴田全利 理事 石森卓矢

一場 弘行

<新設>

【県士会を楽しくする部 多世代企画サポートグループ（仮）】勝野 恵、池田史恵、中嶋有亮、柳井明子

・令和7年度 事務局保管文献一覧

他団体関係：北海道冊子特別号，青森県機関紙，山梨県学会誌，長野県学術誌，茨城県広報誌・機関誌，
石川県広報誌，神奈川県機関紙，島根県学会誌，岡山県学会誌，広島県学術誌，
山口県学会誌，熊本県広報誌，群馬県理学療法士協会冊誌，群臨技会誌

・令和7年度ニュース交換団体一覧

都道府県作業療法士会：北海道，秋田県，福井県，茨城県，東京都，神奈川県，長野県，新潟県，山梨県，
石川県，愛知県，奈良県，京都府，兵庫県，岡山県，広島県，島根県，山口県，
香川県，高知県，福岡県，大分県

県内：群馬県理学療法士協会，群馬県言語聴覚士会，群馬県臨床衛生検査技師会，
群馬県難病団体連絡協議会，群馬医療ソーシャルワーカー協会

県外：家族の会，日本作業療法士協会

・令和7年度入会・転入・転出・退会

令和7年度会員数 840 名 （令和8年3月31日現在）

入 会：45 名

転 入：10 名

転 出：8 名

退 会：105 名

一般社団法人 群馬県作業療法士会

会 長 新井健五
事務局 一般社団法人 群馬県作業療法士会事務局
〒371-0025 前橋市紅雲町 1-7-12 住宅公社ビル 4 階
TEL&FAX : 027-224-4649

令7年度 決算報告(2026.3.31現在)

収支計算書

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月末日

<収入>

(単位:円)

勘定科目	当初予算額	補正額	補正後予算額A	決算額B	差引(A-B)	備 考
新入会員費 振込収入	500,000	0	500,000	416,000	84,000	
県士会費収入	7,200,000	0	7,200,000	6,480,770	719,230	
雑収入	355,000	0	355,000	483,711	-128,711	
銀行利子	5,000	0	5,000	22,822	-17,822	
ニュース・HP広告費収入	20,000	0	20,000	5,000	15,000	HP求人広告収入
賛助会費収入	0	0	0	0	0	
教育部研修参加費収入	120,000	0	120,000	193,000	-73,000	
発達支援グループ	0	0	0	62,369	-62,369	
福利厚生部	0	0	0	2,000	-2,000	
MTDLP研修会	60,000	0	60,000	76,000	-16,000	
県学会参加費等収入	100,000	0	100,000	57,000	43,000	
実習指導者講習会参加費収入	50,000	0	50,000	62,000	-12,000	
許諾抄録使用料	0	0	0	3,520	-3,520	
群馬県事業補助金	583,800	0	583,800	472,000	111,800	2025年度分(¥78,000)含む
R5年度災害対応立替金	137,211	0	137,211	137,211	0	2024年度振込残金
前受金	0	0	0	64,000	-64,000	2026年度会費含
前年度繰越金収入	10,420,398	0	10,420,398	10,793,496	-373,098	
収入合計	19,196,409	0	19,196,409	18,847,188	349,221	

<支出>

勘定科目	当初予算額	補正額	補正後予算額A	決算額B	差引(A-B)	備 考
県士会運営費	3,562,800	0	3,562,800	4,140,375	-577,575	
通信費	650,000	0	650,000	911,789	-261,789	切手・レターパック代、郵送料、振込・引落とし手数料
印刷費	390,000	0	390,000	444,446	-54,446	総会議案書、会員名簿、封筒印刷、インクナー、ドラムユニット等
消耗品費	50,000	0	50,000	23,309	26,691	ラベルシール、のり、ごみ袋、電池、郵送BOX等
備品費	45,000	0	45,000	18,506	26,494	複合機代金
会議費	12,800	0	12,800	7,738	5,062	事務局員引継ぎ駐車場代、会計士飲料代他
事務局運営費	2,410,000	0	2,410,000	2,501,136	-91,136	家賃、電話代、HP、駐車場代、支払報酬料、事務局員給与、税金等
会場借上費	5,000	0	5,000	3,100	1,900	総会会場費
事業・運営費	0	0	0	230,351	-230,351	Zoom、メールフォームシステム、ラクスライトクラウド等
理事会	91,200	0	91,200	87,220	3,980	
通信費	0	0	0	0	0	
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	91,200	0	91,200	87,220	3,980	年6回Zoom開催 ￥800×19人×6回
会場借上費	0	0	0	0	0	
財務部	314,000	0	314,000	180,345	133,655	
通信費	230,000	0	230,000	180,345	49,655	引き落とし手数料、ネットバンキング手数料、振込手数料、クレジットカード年会費等
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	60,000	0	60,000	0	60,000	弥生会計
会議費	24,000	0	24,000	0	24,000	
会場借上費	0	0	0	0	0	

勘定科目	当初予算額	補正額	補正後予算額A	決算額B	差引(A-B)	備 考
学術部	695,000	0	695,000	521,253	173,747	
(機関誌編集グループ)	675,000	0	675,000	514,631	160,369	
通信費	60,000	0	60,000	1,100	58,900	事務局からの郵送料
印刷費	600,000	0	600,000	510,400	89,600	機関誌・学会誌(1200部)、別刷5編、学会ポスター(2種)印刷費
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	用紙、切手代等
原稿執筆謝礼金	5,000	0	5,000	3,131	1,869	機関誌巻頭言等
会議費	10,000	0	10,000	0	10,000	年3～4回Zoom開催、校正作業時
会場借上費	0	0	0	0	0	
(学術研究支援グループ)	10,000	0	10,000	6,622	3,378	
通信費	0	0	0	530	-530	
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	10,000	0	10,000	3,300	6,700	オンライン会議用 ヘッドセット、学会発表用ポインター
会議費	0	0	0	2,792	-2,792	講師軽食代
会場借上費	0	0	0	0	0	
(学会支援グループ)	10,000	0	10,000	0	10,000	
通信費	0	0	0	0	0	群馬県作業療法学会HP運用費は学会予算を使用
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	10,000	0	10,000	0	10,000	群馬県作業療法学会役員会の開催など
会場借上費	0	0	0	0	0	
教育部	762,500	0	762,500	353,868	408,632	
(研修会企画グループ)	750,000	0	750,000	344,008	405,992	
事業・運営費	320,000	0	320,000	244,809	75,191	
通信費	30,000	0	30,000	19,510	10,490	
印刷費	100,000	0	100,000	79,249	20,751	新人症例発表会冊子代
消耗品費	10,000	0	10,000	440	9,560	
備品費	120,000	0	120,000	0	120,000	
会議費	110,000	0	110,000	0	110,000	
会場借上費	60,000	0	60,000	0	60,000	
(生涯教育システムグループ)	12,500	0	12,500	9,860	2,640	
通信費	3,500	0	3,500	0	3,500	
印刷費	1,000	0	1,000	0	1,000	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	5,000	0	5,000	0	5,000	
会議費	3,000	0	3,000	9,860	-6,860	生涯教育制度推進担当者会議参加 旅費交通費
会場借上費	0	0	0	0	0	

(単位:円)						
勘定科目	当初予算額	補正額	補正後予算額A	決算額B	差引(A-B)	備 考
広報部	555,000	0	555,000	534,688	20,312	
(広報企画グループ)	0	0	0	0	0	
事業・運営費	0	0	0	0	0	※公益事業Gと合同で活動
通信費	0	0	0	0	0	
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	0	0	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	0	0	
(ニュース編集グループ)	470,000	0	470,000	455,510	14,490	
通信費	5,000	0	5,000	1,430	3,570	4・7月分¥113,850(1150部) 10・1月分¥113,190(1050部)
印刷費	465,000	0	465,000	454,080	10,920	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	0	0	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	0	0	
(公益事業グループ)	85,000	0	85,000	79,178	5,822	
事業・運営費	65,000	0	65,000	56,265	8,735	ノベルティグッズ作成 イベント案内発送費(各高校宛等)
通信費	20,000	0	20,000	11,580	8,420	
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	11,333	-11,333	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	0	0	0	0	0	
会場借上費	0	0	0	0	0	
福利厚生部	365,200	0	365,200	209,360	155,840	
事業・運営費	332,600	0	332,600	177,160	155,440	保険代\$4,200円、減免事業16,000円含む、RFLイベント、研修会開催等
通信費	3,000	0	3,000	7,705	-4,705	
印刷費	20,800	0	20,800	20,130	670	
消耗品費	8,000	0	8,000	105	7,895	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	800	0	800	0	800	
会場借上費	0	0	0	4,260	-4,260	研修会会場 高崎アリーナ
地域連携推進部	1,974,500	0	1,974,500	989,225	985,275	
(地域包括ケア推進グループ)	527,000	0	527,000	258,167	268,833	
事業・運営費	250,000	0	250,000	69,990	180,010	令和7年度総合確保基金事業申請、広報活動費 手数料、チラシ送料等 研修会チラシ のりなど 日本作業療法士協会主催地域支援事業会議への参加費等
通信費	30,000	0	30,000	118,920	-88,920	
印刷費	200,000	0	200,000	6,567	193,433	
消耗品費	2,000	0	2,000	1,320	680	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	40,000	0	40,000	61,370	-21,370	
会場借上費	5,000	0	5,000	0	5,000	
(発達支援推進グループ)	679,500	0	679,500	316,226	363,274	
事業・運営費	465,000	0	465,000	281,151	183,849	HP更新料、定期勉強会、5歳児健診・学童研修会等、準備・外部講師謝金、スタッフ謝金など 振込手数料 封筒 カメラ付きマイク(オンライン研修会対応機材) 高崎市総合福祉センター、群馬大学等
通信費	25,000	0	25,000	4,290	20,710	
印刷費	1,500	0	1,500	0	1,500	
消耗品費	8,000	0	8,000	110	7,890	
備品費	20,000	0	20,000	8,225	11,775	
会議費	60,000	0	60,000	0	60,000	
会場借上費	100,000	0	100,000	22,450	77,550	
(認知症支援推進グループ)	550,000	0	550,000	290,956	259,044	
事業・運営費	550,000	0	550,000	88,208	461,792	令和7年度総合確保基金事業申請 研修会運営費、実施の会賛助会費 切手代、振込手数料 チラシ、冊子 のりなど 弁当、お茶代 研修会会場、備品費
通信費	0	0	0	124,803	-124,803	
印刷費	0	0	0	58,293	-58,293	
消耗品費	0	0	0	4,372	-4,372	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	0	0	0	6,800	-6,800	
会場借上費	0	0	0	8,480	-8,480	
(精神科領域推進グループ)	218,000	0	218,000	123,876	94,124	
事業・運営費	80,000	0	80,000	97,376	-17,376	研修会運営、講師料、情報交換会等 振込手数料、郵送料 テーブル(こころのふれあいフェスタ) 研修会会場費
通信費	3,000	0	3,000	1,540	1,460	
印刷費	20,000	0	20,000	0	20,000	
消耗品費	5,000	0	5,000	0	5,000	
備品費	0	0	0	9,960	-9,960	
会議費	60,000	0	60,000	0	60,000	
会場借上費	50,000	0	50,000	15,000	35,000	
地域局	190,500	0	190,500	13,295	177,205	
(北中毛ブロック支部)	81,500	0	81,500	0	81,500	
事業・運営費	30,000	0	30,000	0	30,000	
通信費	0	0	0	0	0	
印刷費	1,500	0	1,500	0	1,500	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	50,000	0	50,000	0	50,000	
会場借上費	0	0	0	0	0	
(西毛ブロック支部)	60,500	0	60,500	660	59,840	
事業・運営費	30,000	0	30,000	0	30,000	
通信費	0	0	0	660	-660	
印刷費	1,500	0	1,500	0	1,500	
消耗品費	1,000	0	1,000	0	1,000	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	18,000	0	18,000	0	18,000	
会場借上費	10,000	0	10,000	0	10,000	
(東毛ブロック支部)	48,500	0	48,500	12,635	35,865	
事業・運営費	30,000	0	30,000	12,195	17,805	学会代替 講師謝礼金 振込手数料
通信費	0	0	0	440	-440	
印刷費	1,500	0	1,500	0	1,500	
消耗品費	1,000	0	1,000	0	1,000	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	6,000	0	6,000	0	6,000	
会場借上費	10,000	0	10,000	0	10,000	

(単位:円)						
勘定科目	当初予算額	補正額	補正後予算額A	決算額B	差引(A-B)	備 考
倫理問題検討委員会	1,500	0	1,500	0	1,500	
通信費	500	0	500	0	500	
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	500	0	500	0	500	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	500	0	500	0	500	
会場借上費	0	0	0	0	0	
MTDLP推進委員会	132,000	0	132,000	52,396	79,604	
事業・運営費	100,000	0	100,000	50,086	49,914	講師謝礼金、研修会運営費等
通信費	20,000	0	20,000	2,310	17,690	振込手数料
印刷費	1,000	0	1,000	0	1,000	
消耗品費	1,000	0	1,000	0	1,000	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	5,000	0	5,000	0	5,000	
会場借上費	5,000	0	5,000	0	5,000	
運転と作業療法特設委員会	81,000	0	81,000	0	81,000	
事業・運営費	30,000	0	30,000	0	30,000	
通信費	8,000	0	8,000	0	8,000	
印刷費	2,000	0	2,000	0	2,000	
消耗品費	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	1,000	0	1,000	0	1,000	
会場借上費	40,000	0	40,000	0	40,000	
養成校連絡協議会	45,000	0	45,000	9,253	35,747	
事業・運営費	0	0	0	9,253	0	学会学生飲料代、学生交流会茶菓子代含む
通信費	5,000	0	5,000	0	5,000	
印刷費	0	0	0	0	0	
消耗品費	5,000	0	5,000	0	5,000	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	35,000	0	35,000	0	35,000	
会場借上費	0	0	0	0	0	
福祉用具委員会	46,500	0	20,500	0	20,500	
事業・運営費	26,000	0	26,000	0	26,000	
通信費	1,500	0	1,500	0	1,500	
印刷費	5,000	0	5,000	0	5,000	
消耗品費	2,000	0	2,000	0	2,000	
備品費	0	0	0	0	0	
会議費	12,000	0	12,000	0	12,000	
会場借上費	0	0	0	0	0	
40周年記念式典特設委員会	125,000	0	125,000	15,000	110,000	
事業・運営費	30,000	0	30,000	0	30,000	HP特設ページ開設、ポスター作製等
通信費	10,000	0	10,000	0	10,000	
印刷費	10,000	0	10,000	0	10,000	
消耗品費	10,000	0	10,000	0	10,000	資料印刷代
会議費	50,000	0	50,000	15,000	35,000	会場下見等含む
予備費	15,000	0	15,000	0	15,000	
県士会学会	600,000	0	600,000	456,386	143,614	
臨床実習指導者講習会	230,000	0	230,000	244,194	-14,194	
災害対応委員会	2,000	0	2,000	0	2,000	
選挙管理委員会	5,000	0	5,000	0	5,000	
渉外費	150,000	0	150,000	145,600	4,400	POS連絡協議会会費 会員数×¥100、PT学会協賛金他
部員活動費(日当)	700,000	0	700,000	801,980	-101,980	理事会、40周年特設委員会を除く
部員交通費	100,000	0	100,000	100,385	-385	
予備費	50,000	0	50,000	0	50,000	
計	10,778,700	0	10,778,700	8,854,823	1,923,877	

収 入	18,847,188
支 出	8,854,823
次年度繰越金	9,992,365

<財産目録> 令和8年 3月末日現在

(流動資産)

群銀入金用通帳	2,106,386
群銀財務通帳	4,927,915
事務局通帳	167,447
他部署通帳まとめ	2,790,523
手持ち現金	94
計	9,992,365

群馬銀行定期 ¥3,000,000

令和7年度 一般社団法人群馬県作業療法士会の
会計を監査したところ、収支とも適正なることを認めます。

令和 8年 5月 24日

監事 唐澤 一男

監事 村田 和信